

# **BOM for Windows Ver.6.0**

## **BOM 6.0 Rollup Package 2014.4.15**

### **リリースノート**

Copyright © 2014 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

このドキュメントでは、BOM 6.0 Rollup Package 2014.4.15 の仕様変更、不具合修正、制限事項の各内容について、ご案内しています。

なお、2014 年 3 月現在までに公開済みの BOM for Windows Ver.6.0 および各種製品の修正モジュール、拡張モジュールを同梱しております。

---

<b>■■ 新機能 ■■</b> .....	3
1. 集中監視コンソールの全インスタンスステータスの確認および全インスタンス情報取得機能を実装 .....	3
2. 集中監視コンソールのカスタムアクションに「同時多重実行の禁止」機能を実装 .....	3
<hr/>	
<b>■■ 仕様変更/機能改善 ■■</b> .....	3
1. 監視サービスのスタートアップの種類を追加 .....	3
2. プロセスリスト監視で、「検出されたプロセスリストをファイルへエクスポート」機能に「ログを追記する」オプションを追加 .....	3
3. 集中監視コンソールの表示確認ブラウザーに Internet Explorer 11 および Google Chrome 33 を追加 .....	3
4. 集中監視コンソールのステータスログ絞り込み条件を改善 .....	3
5. 集中監視コンソールのインスタンス情報自動取得機能を手動取得へ変更 .....	4
6. 集中監視コンソールのログインパスワードに指定するパスワードのセキュリティ強化・強化しないを指定できる項目を追加 .....	4
7. 監視を行っているプログラムが異常終了した場合、監視が正常に実行されるよう改善 .....	4
8. BomVmMon.exe ファイルに引数を追加 .....	4
<hr/>	
<b>■■ 不具合修正 ■■</b> .....	4
1. イベントログ監視 (Vista, Server 2008 以降) で、特定条件下において正しく監視が動作していなかった不具合を修正 .....	4
2. BOM 6.0 マネージャー操作時にエラーが表示され、正常に操作ができない不具合を修正 .....	4
3. プロセスリスト監視の「検出されたプロセスリストをファイルへエクスポート」機能を修正 .....	4
4. 集中監視コンソールの画面表示がずれてしまう現象を修正 .....	4
5. 集中監視コンソールでポーリング処理中にポーリング対象のインスタンスを削除した場合、履歴ログが残ってしまう不具合を修正 .....	5
6. 集中監視コンソールのインスタンス情報収集で、IPv6 指定時の条件チェックを修正 .....	5

---

■ ■ 公開済みモジュール ■ ■ .....	5
1. イベントログ監視(選択指定)の内部処理を修正.....	5
2. 代理監視でイベントログ監視(Vista,Server 2008以降)を使用した際のロジックを修正.....	5
3. テキストログ監視でシフト形式のテキストを監視した際に発生していた不具合を修正.....	5
4. Oracle Database 12c に対応.....	5
5. Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)の仕様変更.....	6
6. VMware ESXi 5.5 に対応.....	6
7. Windows 8.1 と Windows Server 2012 R2 に対応.....	6
8. ESXi 上に構築された Windows 8.1 / Windows Server 2012 R2 を代理監視する際の対応モジュール.....	6
9. SNMPトラップ受信機能 拡張モジュールを公開.....	6

---

■ ■ 更新履歴 ■ ■

- 2013年06月 BOM for Windows Ver. 6.0 リリース
- 2014年04月 BOM 6.0 Rollup Package 2014.4.1 リリース
- 2014年04月 BOM 6.0 Rollup Package 2014.4.15 リリース

## ■■■ 新機能 ■■■

### 1.集中監視コンソールの全インスタンスステータスの確認および全インスタンス情報取得機能を実装

- 従来までは、対象グループや、個々のインスタンス毎にステータスの全確認や、個々のインスタンス毎に指定したポーリング時間または、手動で個別にポーリングを行っていました。
- この機能を使うことにより、全インスタンスのステータスを確認し、ポーリング処理を一括で開始することが可能になります。

### 2.集中監視コンソールのカスタムアクションに「同時多重実行の禁止」機能を実装

- BOM 5.0 集中監視コンソールで実装していたカスタムアクションの「アクションの同時多重実行を禁止」と同等の機能を BOM 6.0 集中監視コンソールへ実装しました。
  - この機能を使うことにより、カスタムアクションがすでに動作していた場合、新たに実行対象となるグループやインスタンスで実行条件にあてはまった状態変化が発生しても、新たに実行したカスタムアクションはスキップされ実行されません
- ※ BOM 5.0 集中監視コンソールでは、「アクションの同時多重実行を禁止」のチェックボックスに初期値でチェックが入っていましたが、BOM 6.0 の「同時多重実行の禁止」では、初期値としてチェックボックスにチェックは入っていませんのでご注意ください

## ■■■ 仕様変更/機能改善 ■■■

### 1.監視サービスのスタートアップの種類を追加

- 監視元サーバーが Windows Server 2008, Vista 以降であった場合、監視インスタンス作成時に指定できる、監視サービスの「スタートアップの種類」に「自動開始(遅延開始)」を選択できるように追加しました
- ※ この機能は監視元サーバーが Windows Server 2008, Vista より前であった場合表示されません

### 2.プロセスリスト監視で、「検出されたプロセスリストをファイルへエクスポート」機能に「ログを追記する」オプションを追加

- これまで、プロセスリスト監視では検出されたプロセスリストを上書き形式でファイルへエクスポートしておりました  
イベントログ監視やテキストログ監視同様、すでにエクスポートされたファイルへ対し追記する機能を追加いたしました  
※追記形式で出力を行った場合、時間経過とともにファイルサイズが肥大いたします

### 3.集中監視コンソールの表示確認ブラウザに Internet Explorer 11 および Google Chrome 33 を追加

- 集中監視コンソールの表示確認ブラウザに Internet Explorer 11 および Google Chrome 33 を追加しました

### 4.集中監視コンソールのステータスログ絞り込み条件を改善

- ツリービューの「グループ」や「インスタンス」を選択後に表示される詳細ビュー内の「ステータスログ」タブ表示では、従来、ステータス列の絞り込みはすべて OR 条件で行って、「確認済み」の条件を他のステータス絞り込みと切り離し、他のステータス、かつ「確認済み」や「未確認のみ」の AND 条件で絞り込みが行われるように改善いたしました。
- 「確認済み」とは別に「未確認のみ」の条件を新規で追加しました。  
※「確認済み」と「未確認のみ」の条件はラジオボタンでの選択式です

## 5.集中監視コンソールのインスタンス情報自動取得機能を手動取得へ変更

- インスタンス情報収集を選択した際、従来は自動で接続先コンピューター情報を取得しておりました。該当機能を選択した際、集中監視コンソールでネットワークの負荷や集中監視 Web サービスが導入されているサーバーの負荷が高まる可能性が考えられたため、手動取得へと変更しました

## 6.集中監視コンソールのログインパスワードに指定するパスワードのセキュリティ強化・強化しないを指定できる項目を追加

- 従来までは、集中監視コンソールのログインユーザーで設定できるパスワードは 8 文字以上の大文字、小文字、英、数、記号の複合でパスワードを指定していただく必要が有りましたが、厳重なセキュリティを必要としないお客様向けに、パスワードのルールを軟化させる機能を追加しました

## 7.監視を行っているプログラムが異常終了した場合、監視が正常に実行されるよう改善

- RPC サーバーが例外を返して監視を行っているプログラムが異常終了した場合、該当監視は異常終了以降、監視を行っているプログラムを再起動するまでは、正常に監視が実行できませんでした。監視サービスから監視を行っているプログラムを呼び出す際、監視を行っているプログラムを再起動し、監視が正常に実行されるよう修正しました

## 8.BomVmMon.exe ファイルに引数を追加

- BomVmMon.exe ファイルに新しい引数を追加しました。新たに追加した引数は通常監視で使用しません。

---

## ■■■ 不具合修正 ■■■

### 1.イベントログ監視 (Vista, Server 2008 以降) で、特定条件下において正しく監視が動作していなかった不具合を修正

- Windows のイベントログ内にある EventRecordID の値が、「4, 294, 967, 295」(約 42 億)を超えていた場合、イベントログ監視 (Vista, Server 2008 以降) を使用し監視を行った際、正常に監視が行えず、誤った監視結果を返却していた不具合を修正いたしました。

### 2.BOM 6.0 マネージャー操作時にエラーが表示され、正常に操作ができない不具合を修正

- BOM 6.0 マネージャー操作時に「Create Mutex Error」が出力され、正常に操作ができない不具合を修正しました。  
エラー出力事例
  - テンプレートのインポート選択後、ブラウザでテンプレートのインポート内容を表示させた状態でテンプレートのインポート画面を閉じた上で、再度テンプレートインポート画面を表示させたとき
  - BOM 6.0 を新規インストール後、BOM 6.0 マネージャーを終了せずに、監視インスタンスを新たに作成しようとしたとき 等

### 3.プロセスリスト監視の「検出されたプロセスリストをファイルへエクスポート」機能を修正

- プロセスリスト監視で「検出されたプロセスリストをファイルへエクスポート」機能を使用し監視結果をエクスポートしようとした際、エクスポート先のファイルへ対し上書き・追記ができなかった場合でも監視結果が失敗とならず終了していました。エクスポート先のファイルへ対し、上書き・追記ができなかった場合、監視結果を失敗するように修正いたしました。

### 4.集中監視コンソールの画面表示がずれてしまう現象を修正

- Internet Explorer を使用し、集中監視 Web サービスへ接続した際、一部画面表示がずれてしまい、正しく表示されていない現象を修正いたしました。

## 5.集中監視コンソールでポーリング処理中にポーリング対象のインスタンスを削除した場合、ヒストリーログが残ってしまう不具合を修正

- ポーリング処理中に、ポーリング対象のインスタンスが削除された場合、ポーリング処理完了後に削除したインスタンスのヒストリーログが表示され続けていました。ポーリング中に削除対象のインスタンスがあった場合、ヒストリーログも正しく削除されるよう修正いたしました。

## 6.集中監視コンソールのインスタンス情報収集で、IPv6 指定時の条件チェックを修正

- インスタンス情報収集画面で、IPv6 でコンピューターを追加する際、「:」など適切ではないアドレスを指定した場合、登録することが可能でした。IPv6 でコンピューターを追加する際、省略表記「:」に対し適切ではない IPv6 アドレスが入力された場合、エラーを出力するように修正いたしました。

IPv6 アドレス入力時の条件例

- 「:」の数が多すぎる(最大 7)
- 「:」が 3 つ以上連続している
- 「::」が 2 つ以上ある
- 「:」が末尾に記載されている

## ■■ 公開済みモジュール ■■

下記の内容は Web サイトなどで公開済みの修正モジュールで修正済みの内容です。

BOM 6.0 Rollup Package 2014.4.15 ではこれらのすべてを含んでおり、個別に修正モジュールを適用する必要はありません。

下のいずれかの内容に対応する修正モジュールを適用済みの環境に BOM 6.0 Rollup Package 2014.4.15 を適用した場合、未適用の修正モジュールを自動で判断しすべての修正モジュールが適用された状態となる様インストールが実行されます。

### 1.イベントログ監視(選択指定)の内部処理を修正

- 巨大なイベントログファイルサイズを監視した時、内部処理を変更し情報を取得するように変更しました。内部処理変更後の関数で採取した際、Windows OS からエラーが返却された場合、最大 3 回までリトライするように変更しました
- 2013 年 7 月 11 日公開:BOM for Windows Ver. 6.0 向け イベントログ監視(選択指定)及び(Vista, Server 2008 以降) 修正モジュール

### 2.代理監視でイベントログ監視(Vista,Server 2008 以降)を使用した際のロジックを修正

- 代理監視先と代理監視元で「アプリケーションとサービスログ」配下に同じエントリが存在しない場合に正しくイベントログ監視ができませんでした。代理監視先に接続後、情報を取得するように変更
- 2013 年 7 月 11 日公開:BOM for Windows Ver. 6.0 向け イベントログ監視(選択指定)及び(Vista, Server 2008 以降) 修正モジュール

### 3.テキストログ監視でシフト形式のテキストを監視した際に発生していた不具合を修正

- 監視対象のログファイルがシフト形式であり、なおかつローテーションされたときに、ローテーション前のログファイルおよび、新しく作成されたログファイル両方を読み込んで総行数として返却していました。ファイル名に関わらず、前回の監視終了位置から読み込むように修正しました。
- 2013 年 10 月 7 日公開:BOM for Windows Ver. 5.0 / 6.0 向け テキストログ監視 修正モジュール

### 4.Oracle Database 12c に対応

- Oracle オプション Ver. 6.0 が Oracle Database 12c に対応しました。
- 2014 年 1 月 6 日公開:Oracle オプション Ver. 6.0 向け Oracle 監視 (表領域の使用容量・使用率) 仕様変更修正モジュール

## 5.Oracle 監視(表領域の使用容量・使用率)の仕様変更

- 従来までは、監視対象がOracle11g、Oracle12cであり、なおかつ、監視対象のテーブルスペースに「TEMP」を指定していた場合、常に0%で監視結果を返却しておりました。Oracle11g, 12cのテーブルスペース「TEMP」を監視対象とした場合、以下の値から取得するように変更しました  
ビュー名 :DBA\_TEMP\_FREE\_SPACE  
列 :FREE\_SPACE
- 2014年1月6日公開:Oracleオプション Ver.6.0 向け Oracle監視(表領域の使用容量・使用率)仕様変更修正モジュール

## 6.VMware ESXi 5.5 に対応

- VMware ESXi 5.5で追加されたパフォーマンスカウンターに対応しました。
- 2014年2月20日公開:VMware ESXi 5.5への対応確認について

## 7.Windows 8.1 と Windows Server 2012 R2 に対応

- Windows 8.1 と Windows Server 2012 R2 に対応しました。対応するエディションにつきましては、弊社 Web の製品情報をご参照ください。
- 2014年2月20日公開:Windows 8.1 / Windows Server 2012 R2 への対応確認について

## 8.ESXi 上に構築された Windows 8.1 / Windows Server 2012 R2 を代理監視する際の対応モジュール

- ESXi 上に構築されたゲスト OS にインストールされている Windows 8.1 / Windows Server 2012 R2 を代理監視の監視対象とした際、プロセッサ監視の設定タブを開いた時に、画面の表示が正常に切り替わらず応答なし状態になってしまう現象が発生いたします。従来までは、プロセッサ監視の設定タブを開いた際、リアルタイム(2秒間隔)で更新していましたが、グラフ表示をバックグラウンドで処理するよう変更しました。
- 2014年2月20日公開:BOM for Windows Ver.6.0 Windows 8.1 / Windows Server 2012 R2 代理監視対応モジュール

## 9.SNMPトラップ受信機能 拡張モジュールを公開

- 他のコンピューターやネットワーク装置など、SNMPトラップ送信に対応した機器などから送信された SNMPトラップを受信し、受信した SNMPトラップは Windows OS のアプリケーションイベントログに出力します。また、受信したトラップに対応した MIB ファイルを正しいフォルダーにコピーすることにより、トラップをデコードしイベントログへ出力することも可能です。イベントログに出力された SNMPトラップのログを、BOM for Windows Ver.6.0 のイベントログ監視により監視を行い、SNMPトラップにて受信したアラートを基に、BOM for Windows Ver.6.0 のメール送信アクションでの通知が可能です。
- 2014年2月14日公開:BOM for Windows Ver.6.0 SNMPトラップ受信機能 拡張モジュール